

そのころ、水清さんがかりていた井戸のあった土地に家がたつことになり、水清さんの「キヤア どうだす」という声は天下茶屋から聞かれなくなりました。このようにして、水道の便利なことがわかってきたので、その後だんぐと村のどこどこに、きょうどうの水道が見られるようになりました。

今では、どこの家にも水道があり、それも、家によつては、何か所にも水道があつて、いろいろなことに利用して、たいへん便利ですが、きょうどう水道の時には、おたがいにかまることがあつたでしょう。

おじいさんの子どものころに

あつた めずらしいお話

ナニハのカタハアシ

松田町の沼田には、アシがよくはえました。アシは水ぎわにはえる草で、イネのしんるいなのです。高さ

は一メートル半にもなつて、ススキの大きいのに、にています。

この草の根は、地中深くもぐつて、ここにぐんぐんとひろがつていつて、春には、この根から芽を出して、秋にはほつけます。ふえるのが早くてこまりました。

おじいさんの生まれるずっと前は、このあたりは海に近く、海からふきつける風で、いつもアシの葉が、かたほうによつてしまいました。葉がいつまでもいつまでも一方によつたままではえていきましたので、しまいには、はえてくるアシの葉がみんなカタハになつていきました。

それで、「ナニハのカタハアシ」とよばれて、めずらしがられました。ナニハは大阪の昔のよびなです。

キツネとべんとう

東の方の山には、キツネがいました。田やはたけで



天下茶屋

天下茶屋の、うつりかわり

松本

大阪市立天下茶屋小学校

